

# 赤十字ほっかいどう

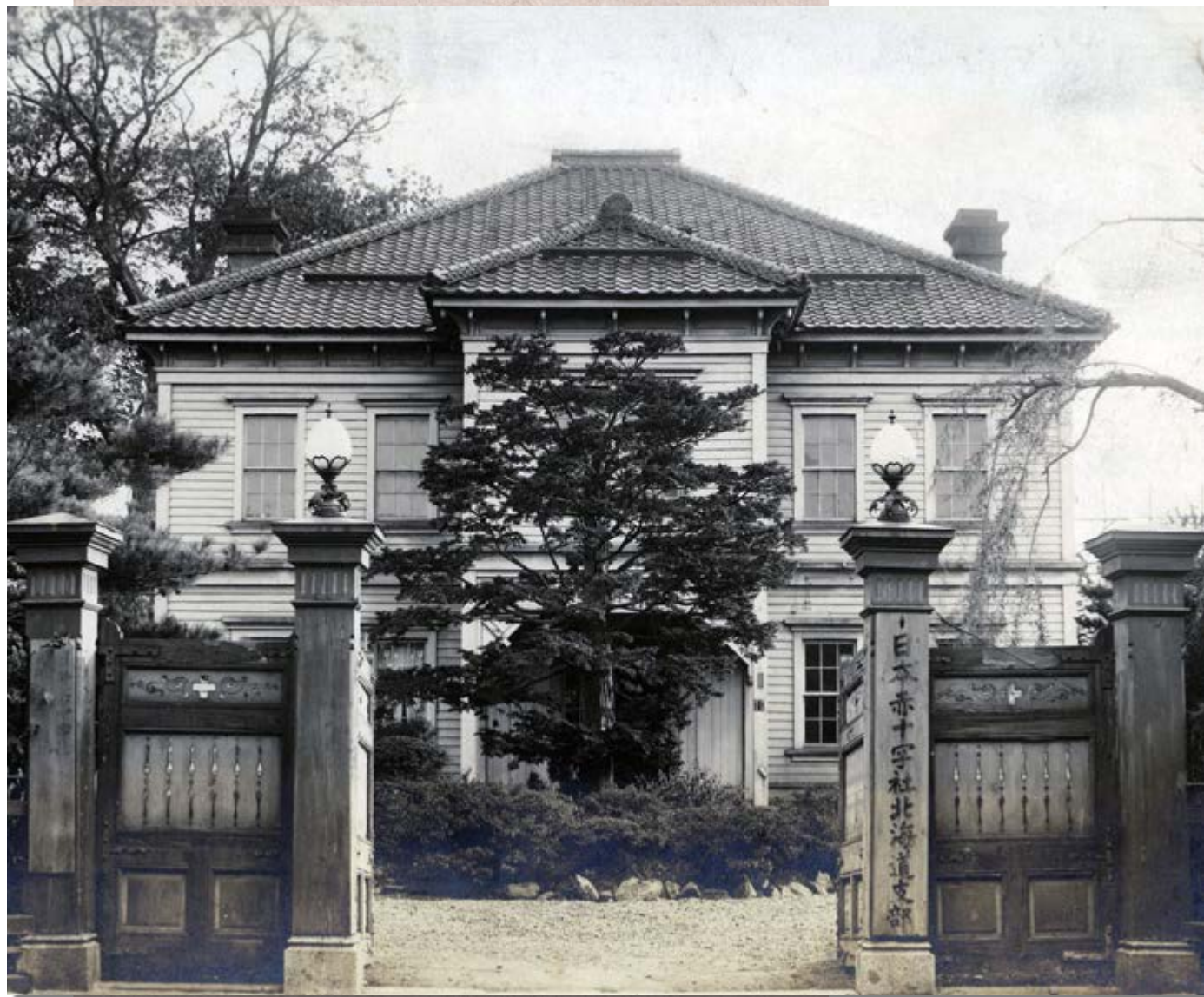
もっと伝えたい。北海道の赤十字のこと。

2017  
8月

## 日本赤十字社北海道支部 創立130周年

日本赤十字社北海道支部は、皆さまに支えられながら、今年、創立130周年を迎えます。

写真は、明治29年（1896年）12月27日、札幌区北1条西5丁目に建てられた北海道支部 旧社屋です。



## CONTENTS

北海道支部創立130周年 ..... 1・2

赤十字フェスティバル.....3

平成28年度事業報告 ..... 4・5

赤十字災害救援車「博愛号」引渡しセレモニー ...6

わがまちの赤十字奉仕団（森町） .....7

献血サマーキャンペーン .....8



# 日本赤十字社北海道支部 創立130周年

明治20年（1887年）、日本赤十字社 社長 佐野常民は、数回にわたり、北海道庁長官 岩村通俊に要請状を送り、日本赤十字社北海道委員部の設立を促しました。

そして、同年11月26日、日本赤十字社北海道委員部が設立され、北海道庁仮庁舎内に事務所を設置しました。ここから日本赤十字社北海道支部の歴史は始まりました。

ここでは、北海道支部に現存する過去の写真の一部をご紹介します。



北海道支部社屋 全景

明治20年（1887年）  
《北海道支部 誕生》

明治29年（1896年）

大正4年（1915年）



北海道支部仮病院 開設（札幌区北2条西2丁目）



北海道支部 第3回社員総会（開院宮殿下・同妃殿下ご臨席）

大正7年（1918年）

大正12年（1923年）



北海道支部病院 開設（現旭川赤十字病院）



函館大火での救護活動（旭川赤十字病院）

昭和9年（1934年）

昭和16年（1941年）



支部正面での記念撮影の後、出動した第272救護班



岩内大火での救護活動

昭和29年（1954年）

昭和32年（1957年）



木古内大火での救護活動（伊達赤十字病院）



# 赤十字 フェスティバル

毎年5月は、赤十字運動の普及を目的とした「赤十字運動月間」を全国的に展開しており道内各地でもイベントが行われました。

旭川・伊達・釧路・浦河・函館の赤十字病院では、血液センターや地区・分区、各種奉仕団と協力のもと、フェスティバルを開催しました。

また、7月にも北見・栗山・小清水・置戸の赤十字病院で赤十字の活動を多くの方に知っていただくためフェスティバルを行い、各会場とも特色あるプログラムを行いたくさんの来場者で賑わいました。

## 旭 川



## 釧 路



## 浦 河



## 伊 達



## 置 戸



## 函 館



## 北 見



## 栗 山



## 小清水





# 平成28年度のご協力 ありがとうございました

平成28年度はみなさまから4億798万6,258円のご協力をいただきました。  
まことにありがとうございました。  
みなさまからいただいた活動資金をもとに行った主な事業を報告いたします。  
なお、6月に行われた平成29年度第1回評議員会にて平成28年度の一般・医療・血液・福祉それぞれの事業報告及び歳入歳出決算が承認されました。

## 広報 15,972,901円

- イベント開催・参加 9回
- 道内赤十字病院での赤十字フェスティバル 10会場
- チラシやポケットティッシュなど広報資材の作成
- 支部ホームページ・フェイスブックの運用



イベントでの心肺蘇生法の体験

## 青少年赤十字事業 13,011,449円

- 子どもたちの宿泊型研修
- 高校生一日研修会
- 活動への助成
- 教員等の研修(本社等主催)
- 教員等の研修(支部主催)



海外メンバー書道体験

## 赤十字社員の加入促進 33,126,851円

- パンフレットや領収書などの募集用資材の作成
- 担当者研修会の開催

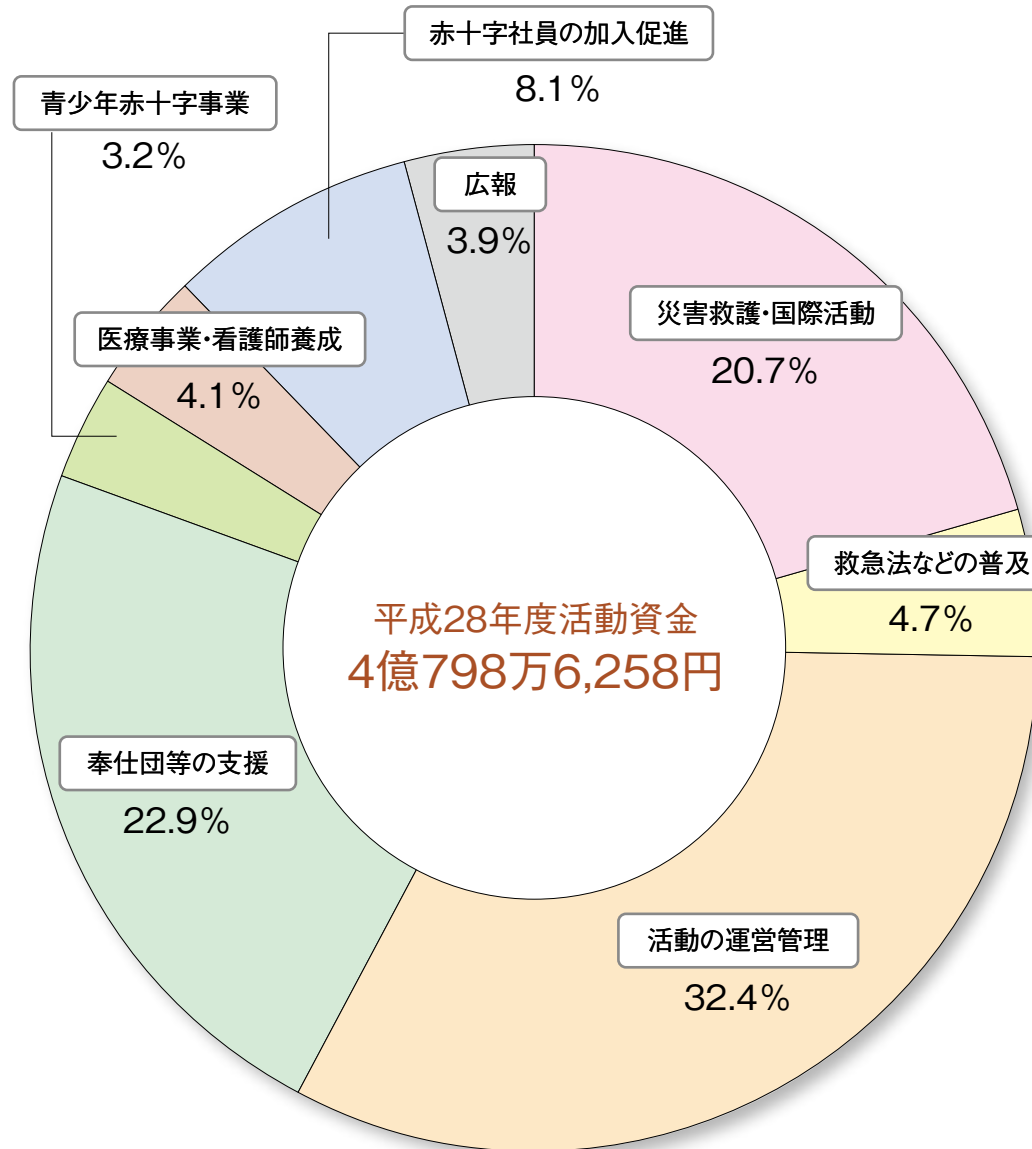
## 医療事業・看護師養成 16,789,501円

- 個人や法人から赤十字病院に対しての寄付による事業
- 看護師養成事業の運営管理費

## 活動の運営管理費 132,086,642円

- 赤十字会館等の維持費
- 血液事業の運営管理費
- 職員の人件費
- 社会福祉事業の運営管理費

※赤十字はボランティアが中心となって活動していますが、事業が円滑に進むよう専任の職員がボランティアとの調整や救援物資・資材の調達、訓練や講習会などをはじめとする事業の企画・立案・調整・報告などを行っています。運営管理費にはこれら職員の人件費を含め、社屋の維持管理費・諸税などが含まれています。



## 災害救護・国際活動 84,345,424円

- 熊本地震災害への救護班・本部要員派遣
- 台風10号等大雨災害へのこころのケア派遣
- 災害救護訓練の参加 10会場
- 災害救護のための各種研修 7会場
- 災害救援車両の市町村への配備 10台
- 災害用天幕の市町村への配備 10台
- 災害用炊き出し釜の市町村への配備 10台
- 毛布や緊急セットの配備
- カンボジアなど3カ国への救急法等普及事業への支援



熊本地震災害 救護班派遣



救援物資の配布



大雨災害こころのケア要員派遣



博愛号

## 救急法などの普及 19,043,066円



健康生活支援講習指導員の養成

- 救急法講習会 410回
- 水上安全法講習会 79回
- 雪上安全法講習会 61回
- 幼児安全法講習会 83回
- 健康生活支援講習会 55回
- 指導員養成講習 1会場
- 指導員研修会 6回
- 合同切替研修会 10会場
- 健康増進セミナー 1回



ノルディックウォーキングによる健康増進セミナー

## 奉仕団等の支援 93,610,424円

- 基礎研修会 7回
- 中級研修会 1回
- 防災などの研修会 47回
- 奉仕団の活動への助成 54件
- 奉仕団の研修への助成 28件
- 市町村への交付金 352件



地域イベントでの炊き出し訓練



保育園での昔遊び



## 親子で学ぶとっさの手当て 開催

5月14日（日）の母の日に「親子で学ぶとっさの手当て～ママを救え～」を北海道支部を会場に開催しました。

このイベントは、AEDの使い方や日常のけがの手当など、親子で体験し楽しく学ぶことを目的とし当日は10家族総勢27名の皆さんが参加しました。

プログラムは、札幌市救急法赤十字奉仕団の協力のもと、〇×クイズやAEDを使った心肺蘇生法、三角巾を使ったけがの手当てなど実際に体験しました。

参加された皆さんからは、「AEDの体験が良かった」「親子一緒に参加で楽しかった」といった感想をいただきました。



## 第17回HOKKAIDOママチャリ耐久リレー大会

6月8日（日）にモエレ沼公園で第17回北海道ママチャリ耐久リレー大会が行われ、赤十字の学生ボランティアが大会スタッフとして、また札幌市救急法赤十字奉仕団がAED体験コーナーで参加しました。

この大会はママチャリを使って4時間走り続けるというもので、約2,300名が集まりました。

当日は、強い日差し、風が強く吹く中での活動となりましたが、札幌市青年赤十字奉仕団、札幌学生献血推進協議会メンバーがおそろいの真っ赤なTシャツに身を包み、受付やお弁当配布、景品引渡しなどで大会を支えました。



## 赤十字災害救援車「博愛号」引渡しセレモニー

6月12日（月）、赤十字災害救援車「博愛号」の引渡しセレモニーが北海道支部で開催されました。

当車両は、災害発生時に毛布などの救援物資の運搬や避難所間の情報伝達などで活躍する車両で、今年は10市町に配備しました。

今回配備される10台のうちの1台はよつ葉乳業株式会社様より寄贈いただきました。

同社は、平成9年より毎年寄贈いただいております今年度で28台目となります。

今年度、配備した市町村は下記のとおりとなっています。

旭川市、歌志内市、鷹栖町、  
音更町、浦臼町、神恵内村、  
平取町、木古内町、乙部町、  
南富良野町



ゴールドキーを手渡す「よつ葉乳業(株)」取締役執行役員管理統括部長 畑山昭典 様 (右)

## わがまちの赤十字奉仕団

### ～森町赤十字奉仕団～

森町赤十字奉仕団は昭和42年11月14日に結団し、平成29年で創立50周年を迎えます。

現在の団員数は108名で、主な活動として森町が実施する防災訓練での炊き出しをはじめ、町営特別養護老人ホームでの花壇作りや国道278号線沿道を花で彩る「さわらフラワーロード」での緑化推進活動にも積極的に参加し、5月から長期間にわたって花が楽しめるよう、水やりや除草作業等に尽力しています。

また、町内で開催される「桜祭り」や「夏のまつり」など各種イベントにも積極的に参加し、町の活性化にも寄与しています。

しかしながら、近年は高齢化に伴って団員数が減少傾向にあります。平成17年4月に旧森町と旧砂原町が合併しましたが、現在の団員は旧森町のメンバーで構成されていることから、砂原地区の町内会が実施する防災訓練において炊き出しを砂原地区のメンバーと共に実施し、新たな団員の加入促進にも精力的に取り組んでいます。

毎年2月には奉仕団主催の研修会を実施しており、講師を招いて災害や防災に関する講演会で団員の知識研鑽と防災頭巾の作成など、団員相互の連携を深めながら今後も奉仕活動に努めて参ります。

委員長

小杉 久美子



奉仕団研修会に防災士を招き知識を研鑽



花壇作り



砂原地区メンバーとの炊出し訓練

## たくさんのご協力ありがとうございました。

～活動資金にご協力いただき、表彰された方々を紹介します～ (敬称略)

### 金色有功章

～社資納入額50万円以上～

【富良野市地区】 大北土建工業株式会社

### 社長感謝状

～金色有功章受賞後さらに50万円以上～

【函館市地区】 三好 豊  
 【函館市地区】 川崎 昭三  
 【函館市地区】 松岡 和子  
 【函館市地区】 亀谷 葉子  
 【函館市地区】 函館ダンスライフ赤十字奉仕団  
 【支部】 (有)アウルメディカル

### 銀色有功章

～社資納入額20万円以上～

【函館市地区】 境 徹夫  
 【函館市地区】 高橋 金次  
 【富良野市地区】 齋藤 芳枝  
 【富良野市地区】 (株)戸電建  
 【富良野市地区】 後田設備工材株式会社  
 【富良野市地区】 (有)中央ハイヤー  
 【富良野市地区】 (株)富良野タクシー  
 【富良野市地区】 (株)山伏パコム  
 【富良野市地区】 (株)タイコウ  
 【富良野市地区】 (株)西川食品  
 【富良野市地区】 日下石油倉庫株式会社  
 【深川市地区】 松田 忠



## 世界のなかまのために

7月4日（火）、青少年赤十字加盟校である池上学院高校の皆さんから「1円玉募金」で集まった総額20,010円の寄付をいただきました。

同校では総合コース・ボランティア部が中心となり呼びかけし、5月22日～6月30日までのあいだ、ネパールとバヌアツの支援を目的とした「1円玉募金」を実施しました。

いただいた寄付は、ネパールの「水・公衆衛生」促進と、バヌアツの「災害リスク軽減・学校安全」活動に役立てられます。



池上学院高校の皆さん

## 踏み出す一歩が誰かを救う ～学生ボランティアが同世代へ献血を呼び掛け～

北海道赤十字血液センターでは、7月に「全道統一サマー献血キャンペーン」を行いました。

このキャンペーンは大学生や看護学生がボランティアとして活動している北海道学生献血推進協議会が主催となり、平成8年から道内5ヶ所（札幌・旭川・釧路・室蘭・函館）で毎年7月に実施されています。

今年のスローガンは「Keep alive ～踏み出す一歩が誰かを救う～」。ほんの少しの勇気をもって献血へ参加することで命が救えるという意味が込められており、イベントの企画立案から当日の呼びかけまで全てを学生ボランティアが行い、SNSを用いて同世代（若年層）へ情報発信し、献血の大切さをPRしました。



呼び掛けを行う学生ボランティア（札幌）

## アンリー、新しい着ぐるみ完成

北海道支部のマスコットキャラクター「アンリー」の新しい着ぐるみが完成しました。

新しい着ぐるみは、送風機で空気を送るバルーンタイプで、総重量も従来のものに比べておよそ3kg近く軽量化されました。

今後、日赤地区（本部）・分区・赤十字施設のイベントなど、赤十字のPR活動に活躍します。



全体的に丸くなりました（正面）



両手が小ぶりになりました（側面）

発行日 平成29年8月1日

発行元



日本赤十字社 北海道支部  
Japan Red Cross Society

札幌市中央区北1条西5丁目  
Tel: 011-231-7126



公式フェイスブックで情報発信中!

<https://www.facebook.com/hokkaido.jrc>



ホームページで

日赤北海道

検索

[www.hokkaido.jrc.or.jp/](http://www.hokkaido.jrc.or.jp/)